

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「九人九色の暮らしをサポート」の理念を掲げており、地域との交流やアットホームで利用者1人ひとりに寄り添った個別ケアを行っている。	○	同左
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	短い言葉の中にも沢山の思いが詰まっている理念を墨書きで壁に掲示しており、月1回のミーティングや日々の関わりを通して具体的ケアの内容を職員間で話し合い理念を共有している。	○	同左
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族を誘っての誕生会やレクリエーションなどを行ったり、地域の店に利用者と一緒に買い物へ出掛けては、会話する機会を設けている。	○	同左
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域推進運営会議を通して、町内会の呼びかけや行事への参加をお誘いしている。	○	同左
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年度より自治会にも入会し、町内の運動会や公民館での文化祭、老人会のグランドゴルフに参加、中学生の体験学習の受け入れなどと、地域との交流に努めている。	○	外に出ることがお好きな利用者が多いので、参加できることを見つけたら積極的に出掛けて、交流を深めたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティング時に話をすることはあるが、施設周辺のゴミ拾いをするくらいである。	○	隣のデイサービスいやしの杜にて、夕方、ビワ温圧灸治療をしているので、ご案内は差し上げている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を行い、皆で検討することになっている。前回の評価結果は職員のミーティングだけでなく、地域推進運営会議でも取り上げ、改善にも取り組んでいる。	○	同左
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議には家族、民生委員、町内会長、老人会長、地域の医師や介護支援専門員などの参加により、多方面からの情報交換を行っている。	○	会議に参加は勿論のこと、夏祭りや運動会などレクリエーションへの呼びかけも行う。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議議事録の提出をし行政との連携を図っており、又、会議を通じて地域の老人会が行っているグランドゴルフに天候、利用者の体調を考慮しながら参加しさせていただいている。社会福祉協議会のケースワーカー職員の訪問を通じて入居者と関わりをもってもらっている。	○	これからも大いに外へ出て、サービスの質を高めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がおり、関係機関や担当者との連携協力を行っている。又、家族に対して、家族会を通して行政書士の方による制度についての説明、情報提供を行った。	○	勉強会などを通じて職員への制度についての理解を深めて行きたい。また家族にも積極的に、かつ、繰り返し制度の説明を行って行きたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待などあってはならぬ事なので、しっかり学び、そのようなことがないようにしている。	○	
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族からの質問には、その都度対応し、理解・納得するまで説明(状況に応じて自宅まで伺う)を行う。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置していたが活用されないため、ご家族には声掛けにて意見を聴き、利用者には定期的なアンケートで意見を聴かせていただいている。	○	同左
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時の声掛けや個人記録を掲示しての説明報告をしている。毎月の(ホーム便り)や写真を掲載した家族向けの新聞やきいも、家族会での説明もあり、健康状態はその都度、キーパーソンへの電話対応を行っている。	○	同左
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時の説明やその都度の電話連絡、毎月のホーム便りや写真を掲載した家族向けの新聞、家族会などを通して家族の意見や希望は反映できるようにしている。ミーティング時の話題にして運営に反映させている。	○	同左
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月に1回以上会議を行い、その都度意見を聞き入れる場を設けている。	○	同左
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	まずは、利用者主体の勤務を作成し、その後必要に合わせて職員の勤務調整を行っている。	○	同左
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	日常の関わりの中で他ホームの職員との交流もあり声掛けなど自然な形で利用者と職員との関係が作り出されている。新しく職員が入っても1ヶ月程度は日勤だけとし、少しずつ馴染みの関係を築くようにしている。	○	同左
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	勿論、差別のようなものは一切ない。職員は目標を持ち、1人ひとりの仕事に対する方向性を確認しながら、自分の出来ることを自信を持って行えるように配慮している。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重の勉強会や研修に参加し、職員の意識向上を図り、利用者に接する際の言葉使いなど職員同士での注意も行なっている。	○	同左
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や事業者協議会主催の研修案内の掲示により外部研修に参加することもできており、研修参加後は報告会や報告書の閲覧による知識の共有に努めている。また、職員がなるべく平等に研修が受けられるようにシフトを考えて、機会を設けている。	○	職員からの研修希望も受け入れ、積極的に勉強していきたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、他施設との合同レクを行っており、数ヶ所の事業所との合同運動会も今年で3回目を迎える。グループホーム協議会の勉強会や他施設との交流を通して、職員の質の向上を図っている。	○	他施設との交流を増やしていく予定である。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	交代で昼の休憩を取り気分転換をすることや、グループ内の整骨院を開放し、職員に活用してもらっている。	○	同左
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々に責任を持つ仕事を与えることにより、皆で協力したり、向上心を伸ばすように働きかけている。	○	同左
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者の今の思いを聴くアンケートを月1回行い、九人各々に1対1でお話をしっかり傾聴する時間を作り、利用者との交流の一つとして活用している。	○	同左
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族会やレクリエーションなどに参加していただき、他利用者の家族との交流に続けている。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	利用者や家族のニーズに合わせ、他の施設、及 びグループ内の施設と連携を図り、サービスの 提供に努めている。	○	同左
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	まずその方にとっての一日はどのように過ごす のか、及び情報によりその方に合わせた環境整 備を行い、その後、他利用者との関わりの中で 独自のサービスを考えている。	○	同左
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう 関係を築いている	洗濯物のたたみ方や干し方、梅干や酢ラッキョ ウの作り方などを利用者から職員が教わり、 様々のことを日常の関わりを通じて、お互いに 学び支えあう関係作りを行っている。	○	同左
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や運動会、レクリエーションなどへの家族 の参加を促し、一緒に支えあう環境作りを行って いる。	○	同左
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	本人の気持ちを大切に、家族のニーズも話し合 いの中で、よい環境を作っていく。	○	同左
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	個人的にハガキを送ったり、ホーム便りを活用し ている。	○	同左
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	誰と誰の関係が良好なのか把握した上で、他と の交流の場も作っている。	○	同左
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	原土井病院へ入院となり退去となった方のお見 舞いには定期的に行って関わりを持っている。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で1人ひとりの思いをしつかり傾聴し、月1回のアンケートやセンター方式の情報シートも活用しながら、希望や意向の把握に努めている。	○	センター方式の情報を充実させていきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を取り入れる事により、利用者またご家族からも情報を戴き、細かいところまで把握する。	○	同左
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	リーダー(E業務)を中心に、引継ぎを密に行い、また連絡ノートによる確認をして、スタッフ全員が状況把握できるようにしている。	○	同左
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の希望・意向を担当職員が把握し、課題や支援していく為の具体的な目標・対応内容をミーティングにて協議し、介護計画に反映させている。	○	利用者の持つ能力を引き出すことができるような介護計画を作成して行きたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティングでプランの内容について検討・評価を行い、その都度の状況に合わせて介護計画の見直しを行っている。	○	介護計画書作成の以前に利用者各個人のアセスメントをミーティングにて行い、それを介護計画へつなげる。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況は24時間細かく記入し、介護計画への取り組みのために引継ぎノートを利用し、ケアの統一へつなげていく。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医との連携や通院介助、外出外泊の際の自宅への送迎も対応している。また、ご家族旅行時の相手者への宿泊の場としても提供している。	○	同左
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練では消防署との連携を図り、夏祭りや運動会では民生委員やボランティアにも声掛けを行っている。	○	より良い暮らしを送る為にも、しっかり利用・協力して支援を続けたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	医療機関との連携を図り、訪問リハビリ、訪問マッサージや訪問看護、訪問歯科などを利用している。	○	希望により訪問美容を行う予定。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターには地域推進運営会議へ出席していただき、利用者またそのご家族の支援も協働して行っている。	○	これからも協働して、より良い暮らしを支援していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループ内の協力医による2週間に1回の往診があり、入居以前からのかかりつけ医への受診についても対応している。	○	同左
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	2週間に1回の往診は定期的に行い、それ以外でも専門Dr. が日曜日に一緒に食事をしたり、往診も行ってもらっている。	○	同左
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当施設の看護職員だけでなく、医師往診時付きの看護師とも気軽に相談できる関係を作っている。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	原土井HPとの連携により、いつでもそういう場合に対応できるように備えている。	○	同左
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者にとって、どういう介護が一番大事なのか話し合い、皆で同様の介護に努めている。	○	ターミナルケアについて、しっかり勉強していきたい。又、家族会等を通じて重度化や終末期についての話し合いの途中である。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療との連携を図り、施設の特徴に応じて対応している。	○	訪問看護との連携を図り、リハビリなどにも力を入れていく予定。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	以前住まれていた様な部屋と同じようにしたり、本人が大切にしている物に対しては、必ず持ってきたりと、念入りに打つ合わせして行っている。	○	職員が十分に情報を把握して、同じ方向でのケアに努めていく。
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録や個人情報は鍵付きの棚に入れている。	○	・言葉使いに馴れ合いが生じないよう気を付ける。 ・接遇などの講習があれば、積極的に参加する。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・どのような活動に対してでも、本人へのお伺いを立て、納得したうえで、行動していただく。 ・イベント参加の際、掲示板に出欠を取る。	○	同左
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出したいという方がいれば、できる限りドライブへ行ったり、入浴したいという方がいれば、好きな時間に入浴していただいている。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧したい方は自室に道具を置いていて、毎日されている。散髪や染髪を希望された方は、行きつけの理髪店へスタッフ同行で行かれたり、家族同行にて行かれている。	○	訪問カットサービスなども検討している。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・毎食、利用者とスタッフで食事のつぎ分けをしており、同じテーブルで一緒に食事をしている。 ・月2回、リクエストのあったメニューを利用者と一緒に手作りで行っており、楽しみとなっている。(作って食べよう会)	○	利用者の希望の外食を今後増やしていきたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	過剰摂取に気を付けつつ、時には一緒に買い物へ行って、お好みの物を購入して召し上がられることもある。	○	(以前はお酒やタバコを摂取される方がいたが、現在はいない為、そのニーズがあれば行っていきたい。)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夏場は特にリハビリパンツの使用は控えて、綿のパンツに尿取りパットを使用し、各個人の排泄リズムに応じてトイレ誘導する事で、失禁を減らすように心掛けている。また、入眠前にトイレを促すことで失禁を減らしたり、夜間もその方のリズムに合わせて声掛けすることもある。	○	外部のケアマネージャーや業者と話し合い時には勉強会通じてより良いものを提供する。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には毎日入浴することが出来ており、希望があればお好きな時間に入らせていただいている。声掛けで入る方の場合も、お伺いして納得した上で入られている。	○	同左
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	コーヒーを召し上がる方は提供し、各自室や少し離れたソファでくつろげる様、個人の時間も大切にしている。一人ひとりの睡眠パターンを把握し、時間帯になれば、休んでいただいている。日中の活動を増やし、夜間の安眠に繋げたり、寝つきの悪い方には、フットバスの提供を行なっている。	○	同左
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸、掃除、おしぼり作り、食事準備、ドリル、ぬりえ、物作りなど、ご本人の希望のものをされており、役割として習慣化してきており、楽しみにもなっている。	○	・マンネリ化しないよう、新しい事の提供。 ・他の施設へ実習を試みる。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っていたいという方には、自己管理していただいている(千円前後)が、ほとんどの方が、ご家族の希望により、事務所に管理している。	○	同左
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関前を自由に散歩していただいたり、希望があればドライブへ出たり、月1回は外出する企画を立て、実行している。	○	同左
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	クルージングランチやグランドゴルフ、図書館や野球観戦、工場見学にタワー見学、お祭り参加などおこなっている。家族同行での、外出・外泊も実施している。	○	・利用者の行きたいという場所があれば、どんどんいきたい ・スタッフ、利用者のご家族と一緒に旅行に行きたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご本人の意向に沿って、電話や手紙等は出来る状態にしている。(電話に関しては、ご家族の意向も含め対応) ・遠くにいる家族などにも、こちらから声掛けし、手紙を書いて頂くよう促している。(フランスにいる娘様)	○	同左
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・時間や場所に縛られず、好きなだけ一緒に過ごせる様にしている。 ・誕生日やイベントの招待状(手作り)をご家族や友人に送り参加を促している。 ・月1回のワークショップでの年賀状や暑中見舞い作りを行なう。	○	同左
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在まで行なった事はなく、転倒防止の観点から、トイレでの棒の設置(立ち上がりの際の前方への転倒防止のため)などの案も出たが、スタッフ間で話し合い検討し、スタッフが付き添う事にして、拘束のない様にした。	○	同左
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	離園による行方不明などの危険を理解しつつ、鍵をかける事はせず、ブザーにより外へ出た事を感知できるようにしている。玄関口の見えるリビングには、必ず1名のスタッフが居る様に徹底している。	○	地域推進運営会議を通じて地域の方に利用者がグループホームの方である事を認識してもらおう。又、近くの消防局の方へも今後提案の予定。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ間で、リーダー(E業務)を中心に、利用者の所在や様子を把握している。プライバシーに関しても、自己等の危険がない限りは、守りつつケアを行なっている。夜間は定期的に訪室し、様子を確認している。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲等での危険がある物や、刃物等は、指定の部屋や引き出しに収納し、必要時のみ取り出すようにしている。利用者が使う場合は、スタッフが注意しながら使用していただいている。	○	同左
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	離園防止の為、玄関口にブザーの設置。誤薬防止のため、服用時スタッフ2名でのダブルチェック。転倒防止の為、必要以上の物を置かない。転倒の恐れのある方の自室に滑り止めマットの設置や、ベッド等の位置の工夫をしている。看護師による、窒息時の対処法の実技指導。食事のキザミ等への対応をおこなっている。	○	同左
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	起こった事故や起こりうる事故に対して、定期的に会議で取り上げ看護師に対応法を学んでいる。	○	心肺蘇生の講習などこれからも定期的に訓練する。(平成20年9月7日予定)
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	建物全体で委員会を発足し、定期的に会議を開き、災害時の対応を話し合っている。又、年2回避難訓練も実施している。	○	同左
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会を開催して意見交換できる機会を作っている。利用者の現状等は包み隠さず、ご家族に伝え、ケア方法も説明している。又、アドバイスもいただいている。	○	同左
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックし、平常時の身体状況を把握している。異変に気づいた場合は、早期に看護師、施設長に報告しスタッフ間で漏れがないように申し送りを徹底している。	○	同左
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が、服薬一覧表を作成し、現在何の為の薬をどのように服薬しているかをスタッフ全員が確認できるようにしている。また、確認印により、把握状況もわかる	○	同左
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分摂取と15時のヨーグルト摂取を毎日徹底し、朝・昼の体操、個別リハビリなど身体を動かし、運動を行なえるようにしている。便秘が続く場合は医師へ報告、適切な下剤等を処方していただく。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛けと介助を行ない、夕食後は、清潔保持と事故防止のため義歯をお預かりし、つけ込み洗浄する。	○	同左
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体操後や入浴前後の水分補給。また、本人が求める時は勿論であるが、それ以外に摂取しようとならない方には、ゼラチンや寒天で固形して提供。	○	同左
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染症予防には毎日の手すりの消毒。毎食前や外出からの帰設の際のうがい・手洗い。 ・嘔吐物・排泄物の取り扱いはゴム手袋を着用。	○	同左
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・冷蔵庫内のチェックと残り物の処分。 ・布巾やまな板のハイター浸け込み消毒。	○	同左
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・親しみやすい手書きの表札の設置。 ・花壇に花を植え、玄関横にはベンチを設置。 ・靴箱の上には、入居者が活けていただいた生花を飾っている。	○	同左
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、殆どの時間を過ごされるリビングは明るく、心地よい音楽も流れている。	○	同左
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングと畳の廊下にゆったり座れるソファを設置。	○	同左
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の写真や自宅から持ち込んだ物などで、できるだけ居心地よく暮らせる工夫をしている。	○	同左

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・各部屋に換気扇は備え付け。 ・朝、昼と定期的に窓を開けての換気。 ・時季によりエアコンによる温度調節。また、冬場は各部屋に加湿器を設置。	○	同左
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ、廊下等の手すりの設置。 ・足元の不安定な方へは、滑り止めマットを設置。 ・転倒防止の為、ベッド等の配置の工夫。	○	同左
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示をしたり、トイレがわからなくなる方には、いつも同じトイレを使用していただく。	○	・同左 ・1日の流れをわかりやすく表示することを考えている。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・玄関前には花壇があり、日なたぼっこしながら楽しむ。 ・屋上には庭園もあるので、より利用する。 ・建物の外周りは、車もよく通るので、外へ出るときは注意を怠らない。	○	同左

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない